



シンフォニア通信 第4号



東京都日野市東平山 3-1-19

社会福祉法人 大家族

特別養護老人ホームシンフォニア

～ごあいさつ～

暑中お見舞い申し上げます。熱中症騒ぎは、エアコンに任せて汗をかかなくなっただけに「体の暑さへの対応力」後退の証でもあります。弱った体にはエアコンは命の支え役にもなっているのも現実で、「万事がすべて良し」にはいかな自然の掟を思い知らされます。皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。

さて、7月31日には、社会福祉法人大家族の保育園、ひよこハウス豊田の子どもたち（0歳から5歳）総勢がシンフォニアに来て、1階の地域交流スペースでわっしょい、わっしょいと御神輿を担いだり、キッズソーランや盆踊りを利用者の皆さんに観てもらい、大いに喜ばれました。子どもたちは、自分たちが表現することで、おじいちゃんおばあちゃんが心から喜んでくれる姿を見て、自分たちの存在を認めてもらう貴重な体験をしています。

ところで、これから介護の世話になる団塊の世代は、子どもの時から「すし詰め学級」という競争の連続で、これからは救急車も順番待ちで競争しなければならぬ大津波の時代（片山文彦、東京新聞8.4）を経験しなければなりません。この大津波に付き合うのが、今、おじいちゃんおばあちゃんを喜ばせ、握手した保育園の子どもたちの世代です。だから彼らには、人間の生き様、老いを見つめつつ、しっかり生きる大人に育て、これからの社会を背負ってほしいのです。

戦前は人の命が赤紙一枚の軽さ、戦後は「地球より重い」とぬかしたのものもいた（前述、片山）が、このような極端から極端に走っての「より不幸」な時代に陥らないように、現実的な対応ができる次世代、次々世代が育てほしいものです。

そのためには、子どもたちの交流で、利用者の皆さんが元気づけられるだけでなく、彼らにいろんなメッセージを発することです。そして人間の知恵としなやかに生きようとする心に思いを託すのです。そんなことができたらいいな、と「大家族」に思いを描いているのです。

社会福祉法人 大家族

理事長 佐々木榮一

～イベント紹介～



7月14日（土）
月に1回の『書道教室』が行われました。皆様、真剣な様子で一文字、一文字丁寧に書かれていました。



7月10日（火）と17日（火）
保育園「ひよこハウス豊田」との交流では園児による『キッズソーラン』が披露されました。利用者様もにこやかに楽しまれました。



7月15日（日）
『ハーモニー佐竹さんの歌声喫茶』が開催され、ギターやハーモニカの演奏に合わせて入所者様も口ずさまれました。



7月22日（日）
『三味線ボランティアねぎぼうず』がシンフォニアに来られました。歌や踊りを披露されました。皆様真剣な様子でご覧になられていました。



7月21日（土）
貫井信行先生による『棒体操』は週1回行われています。無理のない範囲で体を動かすので楽しみながら体操ができます。



7月31日（火）
「ひよこハウス豊田」の『夏祭り』が行われ、園児たちによるお神輿や踊りが披露されました。賑やかで楽しい時間を過ごされました。